

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン サンギョウイカダイガク 学校法人 産業医科大学								
フリガナ大学の名称	サンギョウイカダイガク ダイガクイン 産業医科大学 大学院 (University of Occupational and Environmental Health, Japan, Graduate School)								
大学本部の位置	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号								
大学の目的	産業医科大学（以下「本学」という。）は、教育基本法（昭和22年法律第25号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、医学及び看護学その他の医療保健技術に関する学問の教育及び研究を行い、労働環境と健康に関する分野におけるこれらの学問の振興と人材の育成に寄与することを目的及び使命とする。								
新設学部等の目的	産業医科大学大学院は、本学設立の目的及び使命に基づき、医学及び看護学その他の医療保健技術に関する学問の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展並びに労働環境と健康に関する分野における医学及び看護学その他の医療保健技術の進展と社会福祉の向上に寄与することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 産業保健学部 14条特例の実施 昼夜開講の入学定員を分けていない
	医学研究科 [Graduate School of Medical Science] 看護学専攻 [nursing (Master course)] 計	年	人	年次人	人	修士 (看護学)	平成26年4月 第1年次	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号	
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	平成25年4月 医学研究科（博士課程） 医学専攻（平成24年12月設置届出済み）（40） 生体適応系専攻（廃止）（△10） 環境・産業生態系専攻（廃止）（△10） 障害機構系専攻（廃止）（△10） 生体情報系専攻（廃止）（△10） ※平成25年4月 学生募集停止（平成24年12月届出済み） 平成26年4月 医学研究科（修士課程） 産業衛生学専攻（平成25年8月設置認可補正申請予定）（10）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	医学研究科 看護学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	医学研究科 看護学専攻 (修士課程)	7人 (7)	3人 (3)	5人 (5)	1人 (1)	16人 (16)	0人 (0)	0人 (0)
		医学研究科 産業衛生学専攻 (修士課程)	17人 (17)	3人 (3)	6人 (6)	0人 (0)	26人 (26)	0人 (0)	0人 (0)
		計	24人 (24)	6人 (6)	11人 (11)	1人 (1)	42人 (42)	0人 (0)	0人 (0)
	既設	医学研究科 医学専攻 (博士課程)	25人 (32)	27人 (27)	17人 (17)	1人 (1)	70人 (77)	0人 (0)	0人 (0)
計		25人 (32)	27人 (27)	17人 (17)	1人 (1)	70人 (77)	0人 (0)	0人 (0)	
合計		49人 (56)	33人 (33)	28人 (28)	2人 (2)	112人 (119)	0人 (0)	0人 (0)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		230人 (230)	0人 (0)	230人 (230)					
	技 術 職 員		1,022 (1,022)	0 (0)	1,022 (1,022)					
	図 書 館 専 門 職 員		6 (6)	0 (0)	6 (6)					
	そ の 他 の 職 員		46 (46)	0 (0)	46 (46)					
計		1,304 (1,304)	0 (0)	1,304 (1,304)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	13,682㎡	0㎡	0㎡	13,682㎡					
	運 動 場 用 地	43,544㎡	0㎡	0㎡	43,544㎡					
	小 計	57,226㎡	0㎡	0㎡	57,226㎡					
	そ の 他	169,483㎡	0㎡	0㎡	169,483㎡					
合 計	226,709㎡	0㎡	0㎡	226,709㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		48,183㎡ (48,183㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	48,183㎡ (48,183㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	21室	14室	23室	2室 (補助職員0人)	1室 (補助職員0人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
		医学研究科 看護学専攻		17室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体 での共用分		
	医学研究科 看護学専攻	122,002 [42,356] (120,812 [42,282])	350 [200] (350 [200])	184 [183] (184 [183])	4,616 (4,616)	40,932 (40,932)	71 (71)			
	計	122,002 [42,356] (120,812 [42,282])	350 [200] (350 [200])	184 [183] (184 [183])	4,616 (4,616)	40,932 (40,932)	71 (71)			
図書館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		2,480㎡	196		206,667					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
		2,130㎡	武道館(弓道場、武道場)、屋内温水プール							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コストを含む)を含む。大学全体
		教員1人当り研究費等		450千円	450千円	—	—	—	—	
		共同研究費等		19,000千円	19,000千円	—	—	—	—	
		図書購入費	56,990千円	56,990千円	56,990千円	—	—	—	—	
	設備購入費	274,000千円	274,000千円	274,000千円	—	—	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		818千円	536千円	—千円	—千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			産業医学助成費補助金、手数料収入、寄付金、補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入等							

大学等の名称	産業医科大学								所在地	
	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
既設大学等の状況	医学部									
	医学科	6	105	—	630	学士(医学)	1.00	昭和53	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号	
	産業保健学部						1.00			
	看護学科	4	70	—	280	学士(看護学)	1.00	平成8	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号	
	環境マネジメント学科	4	20	—	80	学士(保健衛生学)	1.02	平成16	〃	
	大学院医学研究科									
	医学専攻	4	40	—	160	博士(医学)	0.57	平成25	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号	
	生体適応系専攻	4	—	—	—	博士(医学)	—	昭和59	〃	平成25年より学生募集停止
	環境・産業生態系専攻	4	—	—	—	博士(医学)	—	昭和59	〃	〃
	障害機構系専攻	4	—	—	—	博士(医学)	—	昭和59	〃	〃
生体情報系専攻	4	—	—	—	博士(医学)	—	昭和59	〃	〃	
附属施設の概要	<p>名称 : 産業医科大学病院 目的 : 付属病院 所在地 : 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号 設置年月 : 昭和54年7月 規模等 : 建物面積 53,809.16㎡</p> <p>名称 : 産業医科大学若松病院 目的 : 付属病院 所在地 : 福岡県北九州市若松区浜町一丁目17番1号 設置年月 : 平成23年4月 規模等 : 建物面積 12,828.01㎡</p> <p>名称 : 産業生態科学研究所 目的 : 産業医学を専門的に研究・教育する付属研究所 所在地 : 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号 設置年月 : 昭和61年4月 規模等 : 建物面積 6,453.11㎡</p> <p>名称 : 産業医実務研修センター 目的 : 産業医等の教育・修練を行う研修センター 所在地 : 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号 設置年月 : 平成3年4月 規模等 : 建物面積 5,179.80㎡</p>									

学校法人産業医科大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成25年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成26年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
産業医科大学				産業医科大学				
医学部				医学部				
医学科	105	—	630	医学科	105	—	630	
産業保健学部				産業保健学部				
看護学科	70	—	280	看護学科	70	—	280	
環境マネジメント学科	20	—	80	環境マネジメント学科	20	—	80	
計	90	—	360	計	90	—	360	
産業医科大学大学院				産業医科大学大学院				
医学研究科				医学研究科				
医学専攻	40	—	160	医学専攻	40	—	160	
				<u>産業衛生学専攻</u>	<u>10</u>	—	<u>20</u>	専攻の設置（認可申請）
				<u>看護学専攻</u>	<u>5</u>	—	<u>10</u>	専攻の設置（認可申請）
				計	<u>55</u>		<u>190</u>	

教育課程等の概要															
(大学院医学研究科 看護学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護研究方法論	1前	2			○			5		1				オムニバス
	英語文献講読	1前	2			○			2						オムニバス
	医療統計学	1後	2			○			1						
	看護倫理学	1後	2			○			1						
	看護学特別研究	2通	10				○		7	3	2				
	小計（5科目）	—	18	0	0	—			7	3	2				
専門領域科目	健康支援・高齢者支援看護学特論	1前		2		○				2	2				オムニバス・共同(一部)
	健康支援・高齢者支援看護学演習Ⅰ	1後		2			○		1	2	2				オムニバス・共同(一部)
	健康支援・高齢者支援看護学演習Ⅱ	2通		4			○		1	2	2				オムニバス・共同(一部)
	生活支援看護学特論	1前		2		○			1		1				オムニバス・共同(一部)
	生活支援看護学演習Ⅰ	1後		2			○		1		1				オムニバス・共同(一部)
	生活支援看護学演習Ⅱ	2通		4			○		1		1				オムニバス・共同(一部)
	母子支援看護学特論	1前		2		○			1						オムニバス・共同(一部)
	母子支援看護学演習Ⅰ	1後		2			○		2						オムニバス・共同(一部)
	母子支援看護学演習Ⅱ	2通		4			○		1						オムニバス・共同(一部)
	コミュニティ看護学特論	1前		2		○			1		1				オムニバス
	コミュニティ看護学演習Ⅰ	1後		2			○		1		1				オムニバス
	コミュニティ看護学演習Ⅱ	2通		4			○		1		1				オムニバス
	看護管理学特論	1前		2		○			1						
	看護管理学演習Ⅰ	1後		2			○		1						
	看護管理学演習Ⅱ	2通		4			○		1						
	メンタルヘルス看護学特論	1前		2		○			1			1			オムニバス
	メンタルヘルス看護学演習Ⅰ	1後		2			○		1			1			オムニバス・共同(一部)
	メンタルヘルス看護学演習Ⅱ	2通		4			○		1			1			オムニバス・共同(一部)
	看護教育論	1前		1		○			2		1				
	国際保健学	1後		1		○			1						
	疾病治療論Ⅰ	1前		2		○			1						
	疾病治療論Ⅱ	1後		2		○			1						
	看護研究基盤コース	1前		1		○									兼1
	医学英語特別コース	1後		1		○									兼38
小計（24科目）	—	0	56	0	—			7	2	4	1			兼38	
合計（29科目）		—	18	56	0	—			7	3	5	1		兼38	
学位又は称号	修士（看護学）	学位又は学科の分野			保健衛生学関係										
修了要件及び履修方法						授業期間等									
修了要件：本課程に2年以上在学して、所定の授業科目について合計30単位以上を修得し、かつ、指導教員から必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格すること 履修方法：共通科目は、必修科目から18単位を履修するものとする。専門科目は、指導教員が指定する科目のうち、講義2単位、演習6単位、合計8単位を履修するものとする。残り4単位については、専門科目より選択履修するものとする。						1学年の学期区分				2学期					
						1学期の授業期間				15週					
						1時限の授業時間				90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	看護研究方法論	<p>(概要) 看護学研究の基本的な研究プロセスや方法論について学ぶ。研究課題の絞り込み、文献の検討、論文のクリティーク、倫理的配慮、概念枠組みの活用、研究デザインの適切な選択方法、研究計画の立案および研究計画書の書き方、データの収集方法および調査の実施、データの分析方法（量的および質的）、結果の提示方法、考察の論述、学会での発表の方法について学習する。さまざまな看護領域における研究の特徴と最近の動向について学習する。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(8 川口 貞親/9回) 看護研究の意義と動向：看護研究の意義と動向について理解する 看護研究のプロセス：看護研究の基本的なプロセスについて理解する 系統的文献検索：文献検索の基本を学び、系統的かつ論理的に検索する方法を学ぶ 論文のクリティーク (1)：看護に関する論文を批判的に読む力を養う 論文のクリティーク (2)：看護に関する論文を批判的に読む力を養う 研究課題と研究デザイン：看護研究の研究課題の吟味と、適切な研究デザインの選定方法について理解する 看護研究の特徴と動向 (6)：メンタルヘルス看護学領域における研究の特徴と動向 研究計画書：看護研究における研究計画書の書き方について理解する 論文の書き方、学会発表の方法：看護研究における論文の書き方および学会発表の方法について理解する</p> <p>(7 林田 賢史/2回) 看護研究の倫理的配慮：看護研究を行う際の倫理的配慮について理解する 看護研究の特徴と動向 (5)：看護管理学領域における研究の特徴と動向</p> <p>(7 長 聡子/1回) 看護研究の特徴と動向 (1)：健康支援・高齢者支援看護学領域における研究の特徴と動向</p> <p>(3 鷹居 樹八子/1回) 看護研究の特徴と動向 (2)：生活支援看護学領域における研究の特徴と動向</p> <p>(5 松浦 祐介/1回) 看護研究の特徴と動向 (3)：母子支援看護学領域における研究の特徴と動向</p> <p>(4 正野 逸子/1回) 看護研究の特徴と動向 (4)：コミュニティ看護学領域における研究の特徴と動向</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	英語文献購読	<p>(概要) 座学、PCによる演習を含め、抄読会などの多彩な機会を通して、看護・医療系の研究に関わる英語力・語彙力を身につけ、さらに自身の研究テーマに関連した幅広い基礎知識を実践的に習得する。大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。また、文献の批判的精読を身に着けることにより、自己の研究の課題や新規性を確認し、研究目的を明確にする。 (オムニバス形式/全15回)</p> <p>(7 林田 賢史/11回) 文献データベースによる文献検索Ⅰ：文献データベースを用いて英文の文献を検索する 文献データベースによる文献検索Ⅱ：文献データベースを用いて英文の文献を検索する 論文の構造：構造化抄録と論文の構造について習得する 批判的精読：批判的精読のチェック項目を理解する バイアスの検討：バイアスの種類やその対応方法について理解する 医学統計に関する英語表現：統計に関する表現について理解する 学生による論文紹介：学生自身が収集した論文について、その内容を紹介する 総括：総括</p> <p>(1) 佐藤 実/4回 論文解説：実際に各種の論文を講読し、詳細まで理解する</p>	オムニバス方式
	医療統計学	<p>看護・医学研究に関わる医療統計学全般について、講義やカンファレンスを中心として基礎知識を得ると同時に、実践応用するための経験を蓄積する。看護学の基盤となる統計学の基本、特に量的な研究に活用される統計手法を中心に学ぶ。また、代表的な研究デザインについても学ぶことで、自己の研究を実施する際に必要な知識や技術を習得する。さらに、バイアスの種類やバイアスの統計的な処理の方法を学ぶことで、自己の研究においてより深い考察が可能となる。</p>	
	看護倫理学	<p>座学の講義を通じて、看護・医療の現場において遭遇する倫理的問題について、熟考するための基礎知識を身につけ、そのうえで実際の倫理的問題について検討する。看護専門職として倫理の原則や倫理規定から看護職に求められる倫理について理解した上で、現在の医療および看護の場において、看護職が遭遇する倫理的課題・ジレンマについて考え。また、研究倫理についての知識を身につけたうえで、倫理申請書を作成し、相互で審査しあい、実際の倫理審査申請書作成の準備をする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	看護学特別研究	<p>(概要) これまでの講義や演習で得た知識、技術を活用して、看護学領域の研究課題を決め、文献の抄読、研究デザインの選定、データ収集、分析、および考察の一連の研究の過程を学び、研究成果を修士学位論文としてまとめる。</p> <p>健康支援・高齢者支援看護学分野 (① 阿南 あゆみ) ・これまでの講義や演習を通して得た知識に基づいて、健康支援・高齢者支援看護学領域における研究テーマの設定についての指導を行う。 ・選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などについての指導を行う。 ・研究テーマに関連する研究倫理申請について理解を深め記述できるための指導を行う。 ・投稿要領や倫理規定に基づいて論文をまとめるための指導を行う。 ・効果的なプレゼンテーションができるための指導を行う。</p> <p>(⑦ 長 聡子) ・これまでの講義や演習を通して得た知識に基づいて、健康支援・高齢者支援看護学領域における研究テーマの設定についての指導を行う。 ・選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などについての指導を行う。 ・得られた結果の解析方法、解釈の仕方、まとめ方についての指導を行う。 ・研究テーマに関連する研究倫理申請について理解を深め記述できるための指導を行う。 ・投稿要領や倫理規定に基づいて論文をまとめるための指導を行う。 ・効果的なプレゼンテーションができるための指導を行う。</p> <p>(⑤ 室屋 和子) ・選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などについての指導を行う。</p> <p>(⑥ 永松 有紀) ・選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などについての指導を行う。</p> <p>(1) 佐藤 実 ・得られた結果の解析方法、解釈の仕方、まとめ方についての指導を行う。 ・投稿要領や倫理規定に基づいて論文をまとめるための指導を行う。</p> <p>() ・これまでの講義や演習を通して得た知識に基づいて、健康支援・高齢者支援看護学領域における研究テーマの設定についての指導を行う。 ・効果的なプレゼンテーションができるための指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護学特別研究	<p>生活支援看護学分野 (③ 鷹居 樹八子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの明確化：各自の関心領域からテーマを明確にし、研究の意義等を説明できる。 ・研究計画書の作成：研究計画書を作成し、倫理委員会で審査を受けることができる ・データ収集：研究計画に沿ってデータ収集を適切にできる ・データの分析、まとめ：得られたデータを分析する ・考察の検討：得られた分析結果を既存の研究結果と比較しながら考察する ・修士論文の作成：修士論文として作成する ・プレゼンテーションの実施：効果的なプレゼンテーションを行うことができる <p>(11 曾根 文夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ収集：研究計画に沿ってデータ収集を適切にできる ・データの分析、まとめ：得られたデータを分析する <p>()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの明確化：各自の関心領域からテーマを明確にし、研究の意義等を説明できる。 ・プレゼンテーションの実施：効果的なプレゼンテーションを行うことができる 	
		<p>母子支援看護学分野 (5 松浦 祐介)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの講義や演習を通して得た知識に基づいて、母子支援看護学領域における研究テーマの設定についての指導を行う。 ・選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などについての指導を行う。 ・得られた結果の解析方法、解釈の仕方、まとめ方についての指導を行う。 ・研究テーマに関連する研究倫理申請について理解を深め記述できるための指導を行う。 ・投稿要領や倫理規定に基づいて論文をまとめるための指導を行う。 ・効果的なプレゼンテーションができるための指導を行う。 <p>(⑩ 中村 恵美)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・得られた結果の解析方法、解釈の仕方、まとめ方についての指導を行う。 ・研究テーマに関連する研究倫理申請について理解を深め記述できるための指導を行う。 ・効果的なプレゼンテーションができるための指導を行う。 	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	看護学特別研究	<p>コミュニティ看護学分野 (④ 正野 逸子) 研究テーマの明確化：各自の関心領域からテーマを明確にし、研究の意義等を説明できる。 研究計画書の作成：研究計画書を作成し、倫理委員会で審査を受けることができる データ収集：研究計画に沿ってデータ収集を適切にできる データの分析、まとめ：得られたデータを分析し、整理できる 考察の検討：得られた分析結果を既存の研究結果と比較しながら考察する 修士論文の作成：修士論文として作成する プレゼンテーションの実施：効果的なプレゼンテーションを行うことができる</p> <p>看護管理学分野 (7 林田 賢史) ・これまでの講義や演習を通して得た知識に基づいて、看護管理学領域における研究テーマの設定についての指導を行う。 ・選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などについての指導を行う。 ・得られた結果の解析方法、解釈の仕方、まとめ方についての指導を行う。 ・研究テーマに関連する研究倫理申請について理解を深め記述できるための指導を行う。 ・投稿要領や倫理規定に基づいて論文をまとめるための指導を行う。 ・効果的なプレゼンテーションができるための指導を行う。</p> <p>メンタルヘルス看護学分野 (8 川口 貞親) ・これまでの講義や演習を通して得た知識に基づいて、看護管理学領域における研究テーマの設定についての指導を行う。 ・選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などについての指導を行う。 ・得られた結果の解析方法、解釈の仕方、まとめ方についての指導を行う。 ・研究テーマに関連する研究倫理申請について理解を深め記述できるための指導を行う。 ・投稿要領や倫理規定に基づいて論文をまとめるための指導を行う。 ・効果的なプレゼンテーションができるための指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	健康支援・高齢者支 援看護学特論	<p>(概要) 慢性病を抱える成人・老年期にある対象や、健康状態の急激な変化により生命の危機状態にある人を多面的にとらえるために必要な概念や理論について、これらの概念や理論がどのような看護の現象を表しているのか、その適用と限界について、文献学習、討論をとおして理解を深める。また慢性病を抱えながら労働をする対象や、健康状態の急激な変化により生命の危機状態にある人に対する支援において、看護職に求められる役割について探求する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑦ 長 聡子/7回) 授業ガイダンス：講義の進め方についてのガイダンス 慢性病をもつ人の健康生活に影響する機能①：慢性病をもつ人の身体的、心理社会的健康状態の評価 慢性病をもつ人の健康生活に影響する機能②：慢性病を持つ対象者のQOL とその評価（文献検討）セルフマネジメント、エンパワメント 慢性病をもつ人の健康生活に影響する機能③：慢性病を持つ対象者のQOL とその評価（プレゼンテーションと討論） 健康生活を支える看護：ストレス・コーピング理論、セルフケア理論 健康生活を支援する発展的方略：保健医療福祉専門職との連携の在り方 まとめ：本科目のまとめ</p> <p>(⑥ 永松 有紀/1回) 急性期看護②：侵襲的治療を受ける人の心身の反応の理解</p> <p>(⑤ 室屋 和子/3回) 高齢者の健康生活に影響する機能①：身体機能、生理機能の評価 高齢者の健康生活に影響する機能②：感覚機能、認知機能、精神機能の評価 高齢者の健康生活と物理的環境：住環境、社会関係の現状と課題</p> <p>() / 1回) 高齢者の健康生活と制度的環境：保健・医療・福祉システムの現状と課題</p> <p>(⑦ 長 聡子・⑥ 永松 有紀/1回) (共同) 成人期の保健・健康課題：成人保健の動向と労働環境</p> <p>(⑥ 永松 有紀・② 佐藤 亜紀/2回) (共同) 急性期看護①：急性期看護の対象について、身体的・心理的・社会的な特徴の理解 急性期看護③：合併症予防および回復促進に向けた看護とその評価（プレゼンテーションと討論）</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域科目	健康支援・高齢者支援看護学演習Ⅰ	<p>(概要) 慢性期看護、急性期看護、老年看護学などの近年の研究トピック、さらに海外の原著論文を精読することで各自の文献精読力を高め、プレゼンテーションを行う。また自身の関心領域における看護研究の動向を理解し、研究課題の明確化をめざす。自身の研究テーマを見出し、それに向けての国内外の先行研究を精読し、研究課題を見出す。また研究テーマに対する研究方法（質的研究、量的研究等）を模索し、今後の研究計画へ発展させるための基本的力を養う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑦ 長 聡子/6回) 授業ガイダンス：ゼミの進め方、プレゼンテーションに関するアナウンス 慢性期看護の近年の研究トピック：慢性期看護の近年の動向 文献紹介、講読 まとめ：本科目のまとめ</p> <p>(⑤ 室屋 和子/3回) 慢性期看護、老年看護の近年の研究トピック：老年看護の近年の動向 文献紹介、講読</p> <p>(⑥ 永松 有紀・(2) 佐藤 亜紀/3回) (共同) 急性期看護の近年の研究トピック：急性期看護の近年の動向 文献紹介、講読</p> <p>(⑦ 長 聡子・(1) 佐藤 実・⑤ 室屋 和子/3回) (共同) 研究テーマに関する検討：関心領域の看護研究の動向、課題に関するプレゼンテーション、全体討議</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	健康支援・高齢者支 援看護学演習Ⅱ	<p>(概要) 健康支援・高齢者支援看護学特論および健康支援・高齢者支援学演習Ⅰでの学びをとおして明らかになった研究課題について、文献精読、全体ディスカッションをとおして検討を重ね、健康支援の場や労働環境に還元できる看護研究をめざした研究目的、研究方法を決定する。研究計画書作成や倫理申請の方法までの一連のプロセスをとおして、これまでに学習してきた様々な知識を関連させ、看護研究を今後行うための基礎的力や態度を身につける。 (オムニバス方式/全30回)</p> <p>(⑦ 長 聡子/9回) 授業ガイダンス：授業の進め方についてのガイダンス 研究目的の明確化：文献検討の結果と研究目的に関するプレゼンテーション、全体討議 まとめ：本科目のまとめ</p> <p>(⑦ 長 聡子・⑥ 永松 有紀/4回) (共同) 研究課題の発表：研究課題についてのプレゼンテーション 研究計画書の作成：研究計画書を作成し、その内容についてプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>(⑥ 永松 有紀・⑤ 室屋 和子/5回) (共同) 研究課題に関連する文献精読：研究課題に関連する文献を精読する</p> <p>(⑦ 長 聡子・② 佐藤 亜紀/7回) (共同) 研究方法の検討：文献検討の結果と研究方法に関するプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>(⑦ 長 聡子・① 佐藤 実/5回) (共同) 研究における倫理的配慮の検討：関連領域の研究における倫理的課題とその検討</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	生活支援看護学特論	<p>(概要) オムニバス形式の講義やカンファレンスにより、自己の看護体験を看護技術学の視点から振り返り、看護技術、生活支援の考えを整理できるようすすめる。看護の対象となるすべての人の健康を生活面から支援するために、生活環境管理の重要性や習慣的な運動の必要性を理解させる。さらに、生活行動時の生理学的反応と看護技術について文献等を用いて明らかにし、生活支援を充実させるための知識と考え方を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(③ 鷹居 樹八子/10回) 看護実践と看護技術との関連：看護実践とは、看護実践の構造、看護技術との関連 看護技術と生活支援との関連：看護技術と生活支援との関連を整理する 看護技術とボディメカニクス：看護技術を人間工学の視点から捉え、生活支援との関連を追求する 看護理論と看護実践の関連：看護実践と看護理論の関連を探求し、実践への活用を検討する 看護技術開発研究の動向：看護技術開発に関連する文献の精読 学習のまとめ 発表：本科目における学びを整理し発表する</p> <p>(③ 野元 由美/3回) 看護理論と看護実践の探求：在宅ケアにおける看護実践と看護理論の関連を探求し、実践への活用を検討する 在宅ケア技術と看護理論：在宅ケア技術の基盤となる看護理論を検討し、実践に活用できる</p> <p>(③ 鷹居 樹八子・③ 野元 由美/2回) (共同) 看護技術とマネジメント：看護技術をマネジメントできる能力を育成するための基礎知識と活用方法を追及する</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	生活支援看護学演習 I	<p>(概要) 年齢や健康障害の有無にかかわらず幅広く地域で生活をする人を看護の対象として捉え、その生活支援のための看護の理論と実践を科学的に追求し、思考を深める。そのために、オムニバス形式の講義と演習、カンファレンスにより学習をすすめる。また看護技術の科学性を探究することを目的として、看護技術に関連する文献を読み、その探究の方法と結果について議論する。さらに、ヘルスアセスメントの知識と技術を演習を通して学び、生活支援のための看護判断の能力を高める。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(③ 鷹居 樹八子/2回) 健康と日常生活動作時の関連：関心のある日常生活動作時を取りあげ、それに関連した文献を精読する ヘルスアセスメント：ヘルスアセスメントの意義と方法を深める</p> <p>((3) 野元 由美/2回) 在宅におけるヘルスアセスメント：在宅におけるヘルスアセスメントについて検討する</p> <p>(③ 鷹居 樹八子・(3) 野元 由美/11回) (共同) 看護技術のエビデンスの検討：看護技術の科学的エビデンスを検討する ヘルスアセスメントの実際：ヘルスアセスメント能力を高め、日常生活援助について理解を深める 自己の研究課題に関連した文献紹介：自己の関心をより明確にするために、関連領域の文献を精読し、まとめる</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	生活支援看護学演習 II	<p>(概要) 抄読会、カンファレンス、セミナーなどの多彩な学習機会や自己の看護体験を通して、生活支援看護学領域における研究課題を明らかにし、研究の方向性や方法などに関連する議論を行う。自分の研究課題の概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学習内容についての口頭発表を行い、より高度なプレゼンテーション能力を身につける。 (オムニバス方式/全30回)</p> <p>(③ 鷹居 樹八子/22回) 看護実践における研究課題、事例分析：看護実践における研究課題について自己の事例をまとめ、発表する 研究課題に関連した研究方法：生活支援看護学領域に関連した研究課題をもとに実験的研究手法について検討する 生活支援看護学領域の文献研究に関する中間発表：今までのクリティークの結果をまとめ、その成果を発表する 生活支援領域の研究課題に関連した倫理的課題の検討：倫理申請において生活支援看護学領域の特性を踏まえ、倫理的課題を明らかにし、議論する 生活支援看護学領域の研究課題に関連した結果の分析：生活支援看護学領域に関連する研究結果のまとめ方等について先行研究を取り上げ検討する 生活支援看護学領域の研究課題に関連した結果の考察：生活支援看護学領域に関連する考察の方法等について先行研究を取り上げ検討する 文献検討のまとめ：文献研究の成果を、自己の研究に活用できるようにまとめることができる</p> <p>(③ 鷹居 樹八子・(3) 野元 由美/8回) (共同) 文献検討とクリティーク：生活支援看護学関連文献のクリティークを行い、意見交換をする プレゼンテーション技法の検討と発表：プレゼンテーション技法の検討を行い、その手法を活用し報告できる</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	母子支援看護学特論	母子看護学の対象を理解し、母子を取り巻く環境を様々な側面から理解する。また母子看護学領域の概念や理論などの基礎的知識を得ると同時に、これらの概念や理論がどのような看護の現象を表しているのか、その適用と限界について文献学習、ディスカッションをとおして理解を深める。今後、自身の研究課題を発展・応用させていくための基礎的能力を身につけるための講義概要とする。さらに論文講読を深めることで自身の研究課題を模索する講義概要とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	母子支援看護学演習 I	<p>(概要) 母子支援看護学特論で学んだ諸概念や理論を活用しゼミ方式で授業を行い、学生のプレゼンテーションを中心に展開する。母性，婦人科疾患，小児看護学領域に関連する最新の英文原著論文を精読し、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。自身の研究テーマを見出し、それに向けての国内外の先行研究を精読する。研究テーマに対する研究方法（質的研究および量的研究）を見出し、今後の研究計画へ発展させるための基本的力を養う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 阿南 あゆみ/6回) 授業ガイダンス：演習計画および内容説明 文献抄読：母子看護学領域の文献抄読 まとめ：今後の研究への発展</p> <p>(5 松浦 祐介/2回) 文献抄読：婦人科疾患領域の文献抄読</p> <p>(① 阿南 あゆみ・5 松浦 祐介/7回) (共同) 学生による文献抄読：母子支援看護学領域の学生による文献抄読</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	母子支援看護学演習 II	<p>母子支援領域における自らの看護現象に対する興味・関心を研究課題として捉え、研究課題に対する答えを導き出す基本的手続きの方法（研究背景・研究デザイン・研究方法・倫理的問題とその対処方法）を学ぶ。これらのプロセスを通して実際に研究計画を立案し、臨床現場に活用・応用できる看護研究を行うための基本となる知識・技術・態度を獲得する。さらに研究フィールドの調整や手続きを自ら行い、将来の看護研究に役立つ基礎力を身につける。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	コミュニティ看護学 特論	<p>(概要) コミュニティ看護の対象を多角的に捉え、援助につなげるために、理論的な枠組みを用いて個人、家族、グループ・コミュニティ(集団・地域)の角度から対象について検討する。そして具体的な活動事例と関連づけながらケアの効果的な支援方法について学習し、対象に合わせた支援について探求する。授業方法は講義とグループディスカッション。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(④ 正野 逸子/13回) コミュニティ看護とは：コミュニティ看護とは コミュニティ看護とは：コミュニティ看護の理論的枠組み 家族のケア理論と方法論：家族ケア理論と方法論(家族システム理論) 家族のケア理論と方法論：家族ケア理論と方法論(家族周期理論) 家族のケア理論と方法論：家族ケア理論と方法論(家族危機理論) パートナーシップ：コミュニティにおけるパートナーシップ① パートナーシップ：コミュニティにおけるパートナーシップ② コミュニティマネジメント：コミュニティを基盤とするマネジメント 協働的アプローチ：コミュニティにおける協働的アプローチ① 協働的アプローチ：コミュニティにおける協働的アプローチ② アプローチの倫理的課題：コミュニティを基盤とする看護アプローチの倫理的課題</p> <p>(16 原賀 美紀/2回) ソーシャルサポート：コミュニティにおけるソーシャルサポート① ソーシャルサポート：コミュニティにおけるソーシャルサポート②</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域科目	コミュニティ看護学演習Ⅰ	<p>(概論) コミュニティ看護学特論で探求した理論をベースに、地域看護の理論や方法論を学び、地域看護を基盤とした実践への応用を検討する。実証的な文献レビューから、コミュニティ看護学の体系化をめざした地域看護の観点から理論構築、質の高い実践のための技術開発、独自の研究手法等を修得する。また、文献学習やコミュニティ看護実践を通じて、基盤を強化できる。またコミュニティ看護の研究と動向を概観し、今後の研究の発展性について考えることができる。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(④ 正野 逸子/2回) ガイダンス：授業計画及び内容に関するガイダンス 先駆的な活動事例②：地域看護実践 (がん事例)</p> <p>(16 原賀 美紀/13回) コミュニティにおける健康課題：地域を取り巻く健康課題と保健・医療・福祉の動向 プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション：プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの理論と方法論 地域診断：コミュニティアセスメントの理論と方法 地域診断に基づくプログラム開発：地域診断に基づくプログラム開発と評価のためのEBN/EB 理論に基づく保健活動の実際：理論に基づく保健活動の実際 グループ・集団のケア理論と方法論：グループ定義とグループ支援の理論と方法論 コミュニティの組織化に関する理論と方法論：コミュニティオーガニゼーション、コミュニティエンパワーメント、トコミュニティキャパシティ コミュニティ活動に関する文献検討方法①：保健・医療・福祉システムにおけるコミュニティ活動に関する文献検討方法① コミュニティ活動に関する文献検討方法②：保健・医療・福祉システムにおけるコミュニティ活動に関する文献検討方法② 先駆的な活動事例①：地域看護実践 (母子事例) 先駆的な活動事例③：地域看護実践 (精神事例) 先駆的な活動事例④：地域看護実践 (高齢者事例) 地域看護実践研究の開発：地域看護実践における研究方法の検討と開発</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	コミュニティ看護学 演習Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>コミュニティ看護学特論で探求した理論をベースに、在宅看護の理論や方法論を学び、在宅看護を基盤とした実践への応用を検討する。実証的な文献レビューから、コミュニティ看護学の体系化をめざした在宅看護の観点から理論構築、質の高い実践のための技術開発、独自の研究手法等を修得する。また、文献学習やコミュニティ看護実践を通じて、基盤を強化できる。さらに、コミュニティ看護の研究と動向を概観し、フィールドワークを通して課題を明らかにし、今後の研究の発展性について考えることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(④ 正野 逸子/29回)</p> <p>ガイダンス：授業計画及び内容に関するガイダンス コミュニティにおける健康課題：コミュニティで生活する個人・家族を取り巻く健康課題 在宅看護の理論と方法論：在宅看護に活用できる理論と方法論 在宅看護過程の特徴：在宅看護過程の特徴と展開 在宅看護と家族看護：家族看護理論を活用した在宅看護 在宅看護の質の評価：在宅看護の質の評価とリスクアセスメント ケアマネジメント理論：ケアマネジメント理論とプロセス ケアマネジメントの方法論：関係職種とのネットワークとケアシステムの構築 コミュニティ活動に関する文献検討方法：コミュニティ活動を基盤とした在宅看護に関する文献検討方法 先駆的な活動事例①：在宅看護実践（障害児事例） 先駆的な活動事例②：在宅看護実践（がん事例） 先駆的な活動事例③：在宅看護実践（難病事例） 先駆的な活動事例④：在宅看護実践（高齢者事例） 在宅看護実践研究の開発：在宅看護実践における研究方法の検討と開発 在宅看護実践研究の開発：在宅看護実践の場におけるフィールドワーク計画 在宅看護実践研究の開発：在宅看護実践の場におけるフィールドワーク 在宅看護実践研究の開発：フィールドワークのまとめ</p> <p>(16 原賀 美紀/1回)</p> <p>個人のケア理論と方法論：セルフケア理論と保健行動モデルと支援方法</p>	オムニバス方式
	看護管理学特論	看護管理学全般にわたり、基本的な理論について理解し、実際の事例や研究の紹介を交えることで、看護管理学の基礎知識や理論と同時に実践応用するための経験を蓄積する。医療・看護の現場の事例を基にディスカッションをし、自分がその立場でどのように取り組むべきかなどを検討する。組織管理、財務管理、人材管理、また看護政策、看護経済などについて基本を学ぶことで、実務として看護管理を実施する者に役立つ知識の提供を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域科目	看護管理学演習Ⅰ	看護管理学特論等の講義において習得した知識をベースに、看護管理学全般にわたる幅広い基礎知識を抄読会を通して実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。看護管理学に関連する最新の英文原著論文を抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。国内事例のみならず、海外での事例を把握することで、多角的な検討が可能となる。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。	
	看護管理学演習Ⅱ	看護管理学演習Ⅰを通じて得た知識をもとに、自己の研究テーマを決定し、実際に研究を遂行するための準備を行う。抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、自己の研究に関する看護管理学の知識を実践的に習得するとともに、研究実施のための必要な知識を身につける。具体的には、自己の研究課題に適した研究方法論、統計解析手法などの看護研究の手法について理解して、研究デザインの検討、統計手法の検討などを行う。また、自身の研究の倫理申請書の作成を行う。	
	メンタルヘルス看護学特論	<p>(概要)</p> <p>個人や集団のライフサイクルを考慮したうえで、心の発達理論、精神力動論、対人関係モデルなど、メンタルヘルス看護を実践するための必要な理論について学習する。心理的、生物学的なストレスの測定方法を理解するとともに、様々な対象に適したストレスマネジメントの実際について学ぶ。メンタルヘルスの問題に関する社会的状況や精神障害者を取り巻く社会の現状を理解し、コンサルテーションをはじめとした看護職に求められる役割、今後の展望について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 川口 貞親/10回)</p> <p>メンタルヘルス：メンタルヘルスの基本 ライフサイクルと心の発達：ライフサイクルと心の発達 精神力動論：自我の構造、機能と防衛機制 精神医療保健福祉：精神医療保健福祉の現状と今後の方向性 精神障害者の理解：精神障害者を取り巻く状況、生活の現状 自殺：自殺の状況と対策 子どもと高齢者のメンタルヘルス：子どもと高齢者のメンタルヘルスの諸問題 薬物療法：向精神薬の基本的な薬理作用 精神看護コンサルテーション：精神看護領域におけるコンサルテーション機能 対応困難事例：対応困難な患者行動と看護者の対応</p> <p>(17 久保 陽子/5回)</p> <p>ストレスの測定：ストレスの測定方法 ストレスマネジメント：ストレスマネジメントの実際 サポートシステム：精神障害者およびその家族のサポートシステム 対人関係論：メンタルヘルス看護学領域における対人関係モデル 対人関係の技法：援助者としての対人関係技法、および自己活用</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域科目	メンタルヘルス看護学演習Ⅰ	<p>(概要) メンタルヘルス看護学の特徴と国内外の最近の動向を理解し、自己の研究課題を具体的に絞り込むために、精神障害者やストレスマネジメントなどメンタルヘルスに関連する文献の中からいくつかを選定する。選定した文献を批判的に読む力を養い、その吟味した内容についてグループ間で議論する。その過程を通して、自己の研究課題について探求する。講義はゼミ形式で行い、学生のプレゼンテーション、学生間での議論を中心に展開し、教員が解説する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 川口 貞親/2回) ガイダンス：講義の進め方のガイダンス、および論文の紹介 まとめ：本講義で学んだ内容を整理する</p> <p>(8 川口 貞親・17 久保 陽子/13回) (共同) 精神障害者支援に関する論文講読：国内外の精神障害者支援に関する論文の講読、議論を行う ストレスマネジメントに関する論文講読：国内外のストレスマネジメントに関する論文の講読、議論を行う 研究課題についてのプレゼンテーション：メンタルヘルス看護学に関する研究課題を紹介し議論する</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	メンタルヘルス看護学演習Ⅱ	<p>(概要) これまでのメンタルヘルス看護学特論、メンタルヘルス看護学演習Ⅰで学んだ知識や技術を活用して、議論を通して、メンタルヘルス看護学領域における自己の研究課題を明確にする。研究を遂行するにあたり、研究方法、倫理的問題、データの収集方法、データの分析方法、結果のまとめ方、適切な考察について十分な知識を得るとともに、論文作成、発表、投稿に関する基礎的能力を修得する。研究課題や研究デザインの選定について、指導教員との議論を重ね、研究遂行するための能力を養う。 (オムニバス方式/全30回)</p> <p>(8 川口 貞親/1回) ガイダンス：講義の進め方のガイダンス</p> <p>(8 川口 貞親・17 久保 陽子/29回) (共同) 文献検討とクリティーク：メンタルヘルス看護学領域の研究課題についてクリティークを行い、ディスカッションする メンタルヘルス看護学領域の研究課題に関連した研究方法：メンタルヘルス看護学領域の研究課題をもとに、研究方法について検討しディスカッションする メンタルヘルス看護学領域の研究課題に関連した倫理的問題の検討：メンタルヘルス看護学領域の研究課題をもとに、倫理的問題を明らかにし、ディスカッションする メンタルヘルス看護学領域の研究課題に関連したデータ収集方法：メンタルヘルス看護学領域の研究課題をもとに、データ収集方法について検討しディスカッションする</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域科目	メンタルヘルス看護学演習Ⅱ	メンタルヘルス看護学領域の研究課題に関連した結果のまとめ方：メンタルヘルス看護学領域の研究課題をもとに、結果のまとめ方について検討しディスカッションする メンタルヘルス看護学領域の研究課題に関連した結果の分析方法：メンタルヘルス看護学領域の研究課題をもとに、結果の分析方法について検討しディスカッションする メンタルヘルス看護学領域の研究課題に関連した考察の仕方：メンタルヘルス看護学領域の研究課題をもとに、考察の仕方について検討しディスカッションする 学びのまとめ（プレゼンテーション）：本科目における学びをまとめ、プレゼンテーション、議論を通して、学びを深める	
	看護教育論	(概要) 看護教育全般にわたり、講義、演習を中心として、我が国における看護基礎教育ならびに継続教育の現状を理解し、今後の課題と展望について検討することをおして、基礎的知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。特に、実習指導、現任教育等今までに体験事実の振り返りを活用して、実践応用につなげられるような発展応用する能力の習得を目指すことを目的とする。 (オムニバス方式/全8回) (③ 鷹居 樹八子/1回) ガイダンス、看護教育学とは：本科目のねらい、展開方法等、看護教育学とは何か概説する (④ 正野 逸子/1回) 現任教育のありかたと実際：現任教育のありかたを検討する (③ 鷹居 樹八子・④ 正野 逸子・⑩ 中村 恵美/3回) (共同) 看護教育カリキュラムのねらいと作成過程他：看護教育カリキュラムの特徴とねらい、作成過程、カリキュラム影響する因子 成人型教育とは何か：経験型実習教育とはなにか 「自己の看護教育観」全体討議、まとめ：自己の看護教育 (④ 正野 逸子・⑩ 中村 恵美/1回) (共同) 看護教育課程の変遷：看護教育の変遷を看護の発展過程と関連付けてまとめる。プレゼンテーションとともに討議をして理解を深める (③ 鷹居 樹八子・④ 正野 逸子/2回) (共同) ケアリングカリキュラムとは：ケアリングカリキュラムの考え方を理解する 経験型実習教育の事例分析：自己の事例を持ち寄り、経験型実習教育の視点で分析、検討する	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	国際保健学	今日の国際保健の意義、目的の理解を通じて、日本が国内外で行っている国際保健活動の状況を理解し、世界の動向と照らし合わせて、その役割について学習する。日本における外国人支援の現状を理解し、適切な支援のあり方について考察する。来日している外国人看護師・介護士の状況と問題について理解する。国際的な看護活動の状況を学び、その文化社会的背景を理解するとともに、日本の看護について考察し、さらに看護領域において我が国が果たすべき役割について考察する。	
	疾病治療論 I	学生が内科的疾患の病態の理解にもとづいて症状、検査所見、診断、治療の流れを理解し、自分で考え看護に応用できるようになることを目標とする。具体的症例にもとづく討論を通して治療の基本的考え方、可能な選択、適応と選択基準、治療の病態に与える影響を理解できるようにする。自分の考えを整理して他人にわかるように説明できる訓練の一環として、文献の調べ方、批評的読み方についても学習する。講義ではその分野を広くカバーするのではなく一部を深く掘り下げ、その経験を他にも応用できる力を養うことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域科目	疾病治療論Ⅱ	手術という侵襲的な治療を必要とする外科系疾患について講義やカンファレンスを中心に知識を習得する。手術基本手技・輸液輸血・麻酔・術前術後管理などの外科的治療法についての基本的な知識・態度・技術を習得するとともに術中・術後合併症の理解を深める。また、各疾患の病態生理、診断治療を理解し、看護・医学に関する英語文献などから看護の実践に必要な知識を蓄積する。さらに臨床の現場での問題点を検討し、外科系疾患に対して看護職に求められる役割と今後の展望について考察する。	
	看護研究基盤コース	大学院生として知っておくべき看護学研究の基盤的事項につき、単なる講義のみでなく、見学や討論、演習を積極的に取り入れたカリキュラムとする。具体的な内容は、①大学院の使命、②医学研究法、③トランスレーショナルリサーチ、④医学倫理・研究倫理、⑤研究における利益相反、⑥疫学、⑦統計学基礎、⑧医学英語、⑨医学情報学、⑩英語論文作成手法、⑪論文投稿・発表の倫理、⑫研究用微生物の取り扱い、⑬実験動物の倫理と法規制、⑭遺伝子組み換え、⑮RIを使ったバイオ実験および放射線取り扱いの基礎知識、である。	
	医学英語特別コース	<p>(概要)</p> <p>大学院の修了者は国際的に通用するグローバルな能力を持つことが期待される。それぞれの専門分野に精通した学内の教員による最新の話題を教材に用いた講義とディスカッションを全て英語で行うことにより、実践的な英語能力と知見を身につける。</p> <p>〈オムニバス方式/8回選択〉</p> <p>(42 森本 景之/1回) 細胞死の形態</p> <p>(43 佐藤 寛晃/1回) 出血性ショックの法医学的診断法</p> <p>(18 上野 光/1回) がん細胞の自律的リプログラミング</p> <p>(19 岩井 佳子/1回) 医学における分子生物学の貢献</p> <p>(20 上田 陽一/1回) 神経内分泌と生体の恒常性維持機構</p> <p>(21 井上 真澄/1回) 副腎髄質細胞におけるGABAの役割</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域科目	医学英語特別コース	<p>(22 柳原 延章/1回) 交感神経系伝達物質の動態に及ぼす臨床治療薬物や植物由来化合物の影響についての英語での講義</p> <p>(23 川本 俊弘/1回) Encyclopedia of Environmental Health [環境保健百科事典] (Nriagu J. Kawamoto T. et al., Elsevier, 2011)を抄読する。</p> <p>(45 大津山 彰/1回) 発がんの分子機構と放射線 Molecular Mechanisms of Carcinogenesis and Radiation Damages</p> <p>(24 明星 敏彦/1回) 化学物質のリスクアセスメントとリスクマネジメント</p> <p>(26 高橋 謙/1回) 疫学およびグローバル産業保健への応用</p> <p>(27 松田 晋哉/1回) 日本の公衆衛生の課題</p> <p>(44 吉田 安宏/1回) 自然免疫と獲得免疫</p> <p>(46 長田 良雄/1回) 寄生虫感染と免疫</p> <p>(28 堀江 正知/1回) 1)産業保健政策の概要、2)労働衛生分野のリスクアセスメント、3)産業保健活動の倫理</p> <p>(47 赤松 直樹/1回) 神経生理学の進歩</p> <p>(48 新開 隆弘/1回) 臨床薬理学的な研究や職場のメンタルヘルスの動向などについて解説する。</p> <p>(29 田中 良哉/1回) 臨床免疫学の治療の最先端</p> <p>(30 久岡 正典/1回) 腫瘍の分子病理とゲノミクス</p> <p>(31 山口 幸二/1回) 合成リチノイドと抗腫瘍メカニズム</p> <p>(32 田中 文啓/1回) 肺癌研究と臨床における最新の知見</p> <p>(49 酒井 昭典/1回) 骨・骨髄損傷後の修復過程における骨形成シグナル</p> <p>(50 和田 太/1回) 高次脳機能に関する夏期特別英語講義</p> <p>(49 酒井 昭典/1回) メカニカルストレスの増減と骨形成シグナルの変化</p> <p>(33 原田 大/1回) ウイルソン病の分子機構</p> <p>(34 中村 元信/1回) 皮膚アレルギー疾患</p> <p>(51 藤本 直浩/1回) アンドロゲンと前立腺癌</p> <p>(35 尾辻 豊/1回) 虚血性僧帽弁逆流の機序と対策</p> <p>(36 興梠 征典/1回) 水俣病(有機水銀中毒)の脳画像所見と病理</p> <p>(37 迎 寛/1回) デフェンシンと呼吸器疾患</p> <p>(52 泉 博之/1回) ヒューマン・マシン・インターフェイス設計における人間中心設計の考え方</p> <p>(38 西澤 茂/1回) くも膜下出血後の脳血管攣縮発生機序</p> <p>(53 近藤 寛之/1回) 全身疾患にみられる眼病変</p> <p>(39 鈴木 秀明/1回) 騒音性難聴の病態</p> <p>(54 川崎 貴士/1回) 侵襲下での呼吸、循環機能の変化とその制御</p> <p>(40 蜂須賀 徹/1回) 婦人科悪性腫瘍の臨床病理学的解析</p> <p>(41 楠原 浩一/1回) 感染症の宿主遺伝要因</p> <p>(55 下野 昌幸/1回) 繰り返し単純弁別課題を行う時の高次情報処理過程の変化を誘発電位を用いて推察する。</p> <p>(25 上野 晋/1回) 化学物質による中枢神経毒性の発症機序</p>	